

国立大学法人 東京大学
公益財団法人立花財団 立花家史料館
柳川市

大友家文書・旧柳河藩主立花家文書の画像を WEB 公開 ——立花家史料館・柳川市（柳川古文書館）・東京大学史料編纂所の連携による、 九州の大名家文書の公開——

発表のポイント

- ◆立花家史料館・柳川市（柳川古文書館）・東京大学史料編纂所の連携により、九州の大名家文書である、大友家文書・旧柳河藩主立花家文書の画像を WEB 公開しました。
- ◆従来の活字史料集ではイメージすることが難しかった、文書のサイズや筆勢、花押（サイン）の形などといった多様な情報を、画像を通して容易に知ることができるようになりました。
- ◆大友家・立花家は全国的に知名度が高く、その文書は国の重要文化財が多く含まれる貴重なものであり、歴史に関心を持つすべての人々に活用していただけると期待しています。

概要

東京大学史料編纂所は、立花家史料館が所蔵し、柳川古文書館に寄託されている古文書の画像の WEB 公開を始めました。

公開が始まったのは、九州の大名家文書である、大友家文書・旧柳河藩主立花家文書の高精細デジタル画像です。立花家史料館と、柳川古文書館を管理運営している柳川市、史料編纂所の三者が連携協定を結んだことにより実現しました。画像は史料編纂所のデジタルアーカイブズ、「Hi-CAT Plus」(<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w81/search>) から閲覧可能です。

旧柳河藩主立花家文書には豊臣秀吉や徳川将軍の文書などが、大友家文書にはそれよりも古い鎌倉・室町時代の文書などが含まれており、前者の一部と後者のほぼ全部が国の重要文化財に指定されています。

こうした貴重な大名家文書の画像が、いつでも、誰でも、どこからでも閲覧できるようになりました。これにより、今後の研究の進展が期待されるのはもちろん、広く市民の方々にも、文書のサイズや風合い、筆勢などといった、文書が持つ迫力を身近に感じていただくことができるようになります。

なお、画像の転載などを希望される場合は、以下の利用規程のページをご参照ください。

<http://www.tachibana-museum.jp/use/index.html>

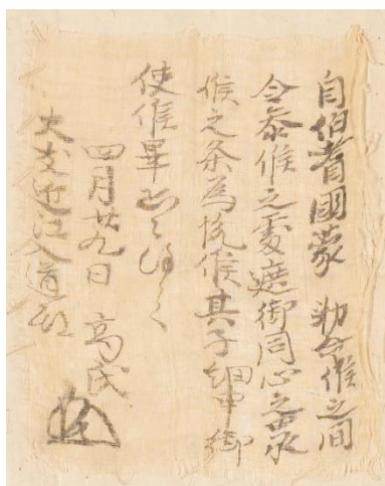


図1：(元弘3年)4月29日 足利高氏感状(大友書翰1-1)

今回画像公開された文書のうちの一つで、紙ではなく、小さな絹布に書かれている。これは、使者に隠し持たせて密かに運ばせるための措置かと考えられている。こうした文書の素材に関する情報は、活字史料集からではイメージしにくいですが、今回の画像公開によって格段にわかりやすくなった。

発表内容

大友家文書・旧柳河藩主立花家文書の概要(別紙の概念図も参照)

戦国時代末期、筑後柳川(現在の福岡県柳川市)には立花家(注1)が入部し、以後ほぼ一貫して大名として続いていきます。同家は豊後国(現在の大分県)の大名・大友家(注2)の一族で、猛将・立花宗茂の活躍などを通じて、一般にも広く知られています。

立花家は長期にわたる活動の中で、大友家当主や豊臣秀吉、徳川将軍などの発給文書を多数蓄積しました(旧柳河藩主立花家文書)。また、秀吉の時代に大友家が改易されたのちには、その所蔵文書(大友家文書)をも継承し、質・量ともにすぐれた武家文書群を形成しました。

現在、大友家文書は立花家史料館(<http://www.tachibana-museum.jp/index.html>)の所蔵となっており、旧柳河藩主立花家文書は立花家史料館所蔵分と福岡県所蔵分とに分かれています。それらはいずれも、柳川市が管理運営する柳川古文書館(<https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/rekishibunka/shisetsu/komonjyo/>)に寄託されており、厳重な保存と精力的な研究が行われています。大友家文書はほぼ全部の290通が国の重要文化財に指定されており、旧柳河藩主立花家文書も、立花家史料館所蔵分のうちの9113通と、福岡県所蔵分のうちの5511通が重要文化財となっています。なお、立花家は甲冑や茶道具などといった美術工芸品も持ち伝えており、それらは現在、立花家史料館に所蔵されています。

研究・活用上の課題

大友家文書は1974年刊行の『大分県史料』第26巻で、旧柳河藩主立花家文書も一部が2011・12年刊行の『柳川市史 史料編V 近世文書前編・後編』で、活字化されています。ただ、文書のサイズや筆勢、差出人の花押(サイン)の形などといった情報は、活字史料集からではイメージすることが難しく、文書が持つ迫力を十分に感じ取ることは難しい状況でした。この課題に対応するため、立花家史料館は「Google Arts&Culture」を活用し、所蔵史料の画像公開に積極的に取り組んでこられました(<https://artsandculture.google.com/partner/tachibana-museum>)、そこで公開されている画像は、現時点では美術工芸品を中心としており、文書はまだ多くはありません。「Google Arts&Culture」は大名家伝来史料の全体像を概観したり、

オンライン展示を楽しんだりすることができる、有用なデジタルギャラリーとして機能していますが、これとは別の、多数の文書を閲覧することに特化したデジタルアーカイブズも、依然として必要とされていたのです。

WEB 公開の実現

そこで今回、立花家史料館・柳川市（柳川古文書館）・東京大学史料編纂所が連携して、大友家文書の全部と、旧柳河藩主立花家文書（立花家史料館所蔵分）の一部の画像を、史料編纂所のデジタルアーカイブズ、「Hi-CAT Plus」（<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w81/search>）（注3）から WEB 公開することにしました。旧柳河藩主立花家文書は膨大な量があるため、まずは一部公開からスタートし、今後、画像数を順次増やしていく予定です。

そもそも史料編纂所（<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/>）は、明治時代以来、史料集の出版を行って日本史研究の基盤を支えてきている研究所ですが、その前提となる、各地に残された史料の収集事業にも、百数十年にわたって取り組んでいます。近年はデジタル技術を活用して、収集した史料情報を組織的に蓄積・管理していくシステムを整えてきました。

こうした長年の実績に基づいて、2019年には「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」の拠点機関に、2023年には「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」の中核機関に認定されました（注4）。これらは、研究データを広く社会で共有していくことを目標とする事業であり、その一環として、史料編纂所は、各地の史料所蔵機関との連携による史料画像の WEB 公開に取り組み始めました。史料画像へのアクセスを容易にすることによって、多様な視点から新しい研究が生み出されていくことを促すとともに、広く市民の方々を対象にして、歴史への関心を喚起することも目指しています。2020年3月の禁裏公家文庫の画像公開を皮切りに、2023年度までに6つの史料群の画像を「Hi-CAT Plus」から WEB 公開しました（今回が7つ目になります）。

特に、史料編纂所は島津家文書をはじめとする九州武家文書を多く所蔵していることから、九州の機関との連携は重点目標の一つだと考えています。そこでまず2021年7月、宮崎県都城市と覚書を結び、同市の都城島津邸にある島津一族関係史料の画像を WEB 公開しました（https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/z0206_00019.html）。

そして今回、九州所在史料の WEB 公開の第二弾として、立花家史料館所蔵・柳川古文書館寄託文書の画像公開が実現しました。実は前出の都城島津邸が、展覧会開催時の史料提供などを通して立花家史料館と相互協力を続けており、このネットワークを通じて、立花家史料館に史料編纂所の活動を知っていただいたことが、今回の公開実現のきっかけになっています。立花家史料館・柳川古文書館は、画像公開の実績を重ねてきている史料編纂所との連携を、積極的に検討してくださいました。また史料編纂所としても、大友家文書・旧柳河藩主立花家文書の公開には、後述のような大きな意義を見出しており、九州の機関との連携の輪を広げる意味でも、ぜひ公開を実現したいと考えたのです。

WEB 公開の意義

こうして今回、大友家文書と旧柳河藩主立花家文書（立花家史料館所蔵分）の高精細デジタル画像を、インターネットを通じて容易に閲覧できる環境が整いました。この画像には、文書の番号や日付・差出人・宛先人などといったメタデータが付与してあるため、既存の活字史料集と対照したり、年号や人名などで検索したりすることも簡単にできます。さらに、文書は基本的には番号に従って漏れなく公開していく方針をとっていますので、文書群全体を番号順に体系的に分析することも可能になります。

今回公開された両文書群の特徴は多岐にわたりますが、たとえば大友家文書には、足利将軍 15 人のうち 11 人の発給文書が伝わっています（短命だった義量・義勝・義尚・義栄の文書を欠く）。また旧柳河藩主立花家文書には豊臣秀吉の発給文書が約 90 点あり、一つの家に伝わった数としては、全国的に見ても非常に多いといえます。そのためデジタルアーカイブズを通じて、歴代の足利将軍の花押（サイン）を概観したり、多数の秀吉文書の紙や筆跡を見比べたりすることが可能になっています。これは、日本史研究を進めるうえで役に立つことはもちろん、歴史上のよく知られた人物の古文書を多数閲覧できるという点では、市民の方々にも親しんでいただけるものと考えます。

つまり今回の画像公開は、研究者に限らず、歴史に関心を持つすべての人々に有益な、たいへん意義深いものなのです。学校教育や生涯学習などを通して、今後広く活用していただけることを期待しています。



図 2：(天正 14 年) 9 月 10 日 豊臣秀吉判物（「立花」 4 0）

今回画像公開された豊臣秀吉発給文書のうちのひとつで、立花宗茂を「九州之一物」（逸物。もっともすぐれている者）と激賞している。画像が公開されたことで、こうした印象的な文言が実際にどのような筆致で書かれているのかも、容易に知ることができるようになった。当該文言は 14 行目にあるので、デジタルアーカイブズ上で文書番号の「立花」 4 0」などをキーワードに検索し、拡大してご覧いただきたい。

○関連情報：

「ARTICLES 宮崎県都城市との連携により都城島津邸所蔵史料の画像を Web 公開」（2021/8/3）
https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/z0206_00019.html

発表者・研究者等情報

東京大学史料編纂所

尾上 陽介 教授（所長）

井上 聡 准教授

山田 太造 准教授

石津 裕之 助教

小風 綾乃 特任研究員

畑山 周平 助教

研究助成

本研究は、科研費「史料データセンシングに基づく日本列島記憶継承モデルの確立（課題番号：24H00011）」、「「原本史料情報解析」の方法による中世西国武家文書の研究と展開（課題番号：20H01307）」、および JSPS 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業（JPJS00319217592）、JSPS 人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業（JPJS00320231001）の支援により実施されました。

用語解説

(注1) 立花家

大友家の一族で、南北朝時代ごろに分出したとされている。戦国時代末期に家督を継承した立花宗茂が柳川城主となる。関ヶ原の戦い後に改易の憂き目にあうが、1620年に再び柳川に封じられ、以後は明治維新まで大名として続いていく。

(注2) 大友家

豊後国（現在の大分県）の守護を務めた、鎌倉時代から続く九州の大名。16世紀の中盤、キリシタン大名としても著名な大友宗麟の時代には、北部九州に広く支配を及ぼした。その後勢力が衰え、1593年には豊臣秀吉によって改易されて大名としては断絶、その所蔵文書は立花家に継承された。

(注3) Hi-CAT Plus（ハイキャットプラス）

史料編纂所のデジタルアーカイブズのうちのひとつ。史料編纂所がこれまでに撮影・収集した、国内および海外に所在する史料の画像データを閲覧するためのもの。所蔵機関の許可が得られた史料群（禁裏公家文庫・松尾大社所蔵史料など）については、ここから画像をWEB公開している。

(注4) 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業／人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業

前者は、「人文学・社会科学研究に係るデータを分野や国を超えて共有・利活用する総合的な基盤を構築することにより、研究者がともにデータを共有しあい、国内外の共同研究等を促進することを目指し」た事業（同事業のHPより。<https://www.jsps.go.jp/j-di/index.html>）。その成果を踏まえて、データ共有の基盤のさらなる強化を目指しているのが、後者の事業である（<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/di/>）。

問合せ先

<利用に関する問合せ>

公益財団法人立花財団 立花家史料館

Tel : 0944-77-7888 E-mail : info@tachibana-museum.jp

柳川市 柳川古文書館

Tel : 0944-72-1037 E-mail : komon@city.yanagawa.lg.jp

<研究に関する問合せ>

東京大学史料編纂所

助教 畑山 周平（はたやま しゅうへい）

Tel : 03-5841-5974 E-mail : hatayama@hi.u-tokyo.ac.jp

<報道に関する問合せ>

東京大学史料編纂所 IR・広報室

Tel : 03-5841-1615 E-mail : ir@hi.u-tokyo.ac.jp

今回のWEB公開対象に関する概念図

豊後大友家

鎌倉時代ごろからの文書を所蔵

1593年 改易

継承

筑後柳川立花家

大友家文書

戦国時代ごろからの文書を所蔵

甲冑・茶道具などの美術工芸品

立花家史料館

大友家文書 (うち二九〇通が重文)
柳川古文書館寄託

旧柳河藩主立花家文書 (うち九一―三通が重文)
柳川古文書館寄託

立花家伝来の美術工芸品

福岡県

旧柳河藩主立花家文書 (うち五五―一通が重文)
柳川古文書館寄託

WEB公開 (全部)

WEB公開 (一部)